

# 2019年度重点目標と達成計画

大阪医療福祉専門学校

2019年度重点目標	達成計画・取組方法
<p>①職業実践専門課程における認定要件について、病院等と連携し質の保証・向上に対してより効果的な先進的取組を推進を目指す。</p>	<p>自己点検・評価委員会を設置し、各項目の設定、実施、報告を行う。                      学校関係者評価委員会を年1回実施し、自己点検・評価結果を客観的に確認評価する。                      教育課程編成委員会を年2回、学科ごとの委員会を年2回実施し、病院・施設と組織的な連携を確保し、授業科目等教育課程を編成する。                      学校概要・理念・目標・教育内容・学生支援等及び財務内容等、積極的な情報公開を実行する。                      &lt;具体的取組み&gt;                      ・病院等と連携体制を確保して、実習等を実施する。(病院等との連携による達成度評価を取り入れた実習等)                      ・病院等と連携体制を確保して、教員に対する研修を組織的に実施する。                      (病院等との連携による体系的な研修の構築)</p>
<p>②学生募集目標達成 (2019年度目標：310名)</p>	<p>マーケット別広報、2年生対象の早期広報等改善を図り募集目標310名を達成する。「こどもリハビリ支援専攻科」を2020年度に開設するための準備をおこなう。当年度募集目標の達成はもちろん、将来を見据えた信頼広報を展開する。特に卒業生、法人会員対象の業界推薦入試を実施し、尚一層業界との連携を図っていく。</p>
<p>③退学率の低減を図る。(2019年度目標：4.0%)</p>	<p>3つのポリシーに基づいたカリキュラムを提示し、入学前からしっかりとした目標をもつことで退学の防止をはかる。そのためには体験入学時で卒業後の成長が感じられるような具体的な目標を示していく。「資格をとって将来どうなりたのか」を一緒に考えていくような体験入学としていく。また入学予定者に対し入学前から段階的に「学びながら」入学するというシステムである全学プレカレッジ、学科プレカレッジを更に深い学びができるような内容にしていく。統計では1年終了時の成績が卒業成績との関連性が認められている。1年次に実践的な授業や学内実習を多くとり入れ、「学びの楽しさ」を学生が実感することで自分の将来像を描けるようにすることで退学を防止していく。</p>
<p>④学費完納率目標達成 (2019年度目標：100%)</p>	<p>学費支援体制を強化し、個別対応の徹底を図り、全学生の学費納入を達成し、財務基盤の安定を図る。                      月一度学校責任者と学費担当者の学費ミーティングを実施し、現状確認と対策を検討していく。                      学生が学費の相談をしやすいように、学費相談BOXの設置する。</p>
<p>⑤国家試験取得率の一層の向上を図る。全学科100%を目指す</p>	<p>教員の国家試験対策力をつけるために卒業試験の作問およびブラッシュアップを強化する。また、国家試験対策授業では、能力別個別対応の徹底を図っていく。国家試験センターと連携しJWEBを利用し、通学中でも課題に取り組みたり、切れ目の無い対策を行う。1年次から国家試験に向かうメンタルの強さを育てていく。既卒者対策：学習場所を確保し来校しやすい状況を確保する。既卒者対策担当教員を設置し、次回国家試験合格を目指す。</p>
<p>⑥就職目標達成 (2019年度目標：100%)</p>	<p>開校以来、第一専門領域への就職100%を達成している。新規求人先開拓を実行し、求人件数増加を図り目標を達成する。国家試験終了後就職活動を始める学生がみられる。国家試験合格を早期に見込めるよう教務とキャリアセンターが協</p>

⑦教職員の更なる資質の向上を目指す。業界との一層の連携強化を図る。	ワークライフバランスを遂行し教職員一人一人が学ぶ時間を持てるよう更に推進する。人生100年時代を迎え教職員のキャリアアップを支援していく。そのためにはまず教職員が「ワークライフバランス」を実践できるよう、支援していく。
⑧業務効率化を図る情報システム化を一層整備す	SHIP（学生カルテシステム）やスケジュール管理のためサイボウズを導入し、単純作業を外部委託することで、業務効率化をはかり優先順位をつけて仕事に取り組む。会議をペーパーレスで行い、業務の簡略化とコストダウンを図る。チームリーダーを中心に業務の属人化をやめチームで成果をあげていく。
⑨学生による授業評価の徹底を図る。	滋慶学園FD委員会、大阪医療福祉専門学校FD委員会で統一的に実施し、現状分析することにより、学生の満足度を高めるとともに、公開授業による専任教員の教育力・教授力向上を目指す。教職員は、アクティブラーニングを取り入れていき、学生には主体的な学びの習慣が根付くように事前課題や宿題の提供を促進するようなシラバスに変更した。授業アンケートの内容も、主体的な取組に焦点を当てた内容に変更し、年度末のアンケートに頼るだけでなく授業ごとにJクリッカーで、その場で分からないことをなくす努力を行う。
⑩卒業生の社会的活躍及び評価を把握するとともに、支援体制を強化する。	同窓会において、役員主導の運営による組織の確立を充実させ、表彰ポイント制度の導入により、役員としての運営貢献度、学術活動、社会貢献活動等を表彰し、より一層の活性化を図っていく。全学同総会・学科勉強会への参加を促し、各職能団体での卒業生の学会発表についても協力していく。
⑪施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通り実行する。	開校18年目となり、大規模な施設更新が必要となる。業者との連携を密に予算化を図り、効率的に実行していく。また備品に関しても、整備点検を密に適格なメンテを行う必要がある。必要な備品については購入していく。2018,2019、2020年3年かけて全館の空調を取り替える。
⑫インフルエンザ・ノロウイルスなど感染対策を徹底する。	プログレスウオーター、ウエルパスを各階、エントランス、トイレに配置。毎日の見回りでプログレスウオーター、ウエルパスの残量をチェックしていく。各教室にはプラズマクラスタの空気清浄機を11月から2月まで配置する。11月、12月にはインフルエンザワクチン接種を推奨する。卒業研究発表会など学校行事ではマスクを全員に配布し出入り口にプログレスウオーター、ウエルパスを配置する。
⑬防災に対する体制を整備する。	有事の際の緊急連絡網の整備等は充実しているが、休日対応・夜間対応等様々なケースを想定した対応をマニュアル化する。防災訓練については、火災避難訓練（6月21日）、地震避難訓練（10月28日）を別途に行い、また防災週間を設定している。現実的な避難訓練を実施するとともにAED講習（8月19日）も予定している。